

えがお 愛顔の生きもの 100年レター

愛媛県生物多様性
ニュースレター
vol.2
(平成30年3月)

日本最小のハッチョウトンボ(愛媛県の特定希少野生動物種)

オニヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、皆さんは、トンボにはどれくらいの種類があると思いますか?日本には約200種のトンボが確認されており、そのうち愛媛県でも90種が記録されています。今回は、その中から、日本最小のトンボ「ハッチョウトンボ」(*Nannophya pygmaea Rambur*)を紹介し、ハッチョウトンボは、体長が一円玉の直径(約2cm)程しかない小さなトンボですが、写真のよう

に成熟したオスは体全体が鮮やかな赤色になり、非常に存在感があります。全国的にも希少な種で、47都道府県のうち33都府県で絶滅危惧種にランクされており、愛媛県では唯一西条市でしか見ることができません。生物多様性センターでは、毎年、ハッチョウトンボの観察会を開催しています。一緒に、初夏の「赤い妖精」に会いに行きませんか?



ハッチョウトンボ成熟オス



実物大

CONTENTS

- 【図鑑】ハッチョウトンボ
- 【調査研究】特定希少野生動物種「コガタノゲンゴロウ」
- 【アルバム】わくわく自然観察会
- 【TOPIC 外来生物】オオキンケイギク
- 【紹介】特定非営利活動法人内子未来づくりネットワーク



図鑑 ハッチョウトンボ

ハッチョウトンボの体色は、羽化してから日数が経たない未熟な時はオス・メスともに薄いオレンジ色していますが、成熟するとオスは裏紙のような真っ赤に、メスは右の写真のように、黄色地に黒や褐色の斑紋が現れます。国内の分布域は本州、四国、九州で、平地～丘陵地の陽当たりが良く、ミスゴクなどがえて泥が堆積した湿地に生息しています。愛媛県内での観察事例では、成虫は4月下旬から羽化し、9月上旬まで見られますが、個体数が多いのは5月下旬～6月上旬です。成熟した雄は、湿地内の開けた水面のある水辺に生えた植物の細い茎などに止まって調整りをもち、他の雄が侵入すると激しく争います。雌ではレッドデータブック絶滅危惧1類(CR+EN)にランクされているほか、「愛媛県野生動物種の多様性の保全に関する条例」により特定希少野生動物種に指定されており、採集等が禁止されています。



ハッチョウトンボ成熟メス

ているのは、西条市内の1地点のみで、県の保護区に指定されています。この保護区は、庄内ハッチョウトンボ保存会のご協力により、毎年の草刈りや根絶など湿地の維持管理作業が行われており、個体数は年々増加しています。このたび、これらの活動が高く評価され、保存会に第14回三浦保環境賞の大賞が贈られました。皆さんおめでとうございました。

参考文献/久松定智・笠原礼典、2014、トンボ目、愛媛県レッドデータブック2014 Red Data Book Ehime 愛媛県の絶滅のおそれのある野生動物、愛媛県環境政策部環境自然保護課、62-2p。
NPO法人野生動物調査協会・NPO法人Envision環境保全事務所、2018、日本のレッドデータ種系システム、2018年1月10日アクセス。

調査研究 特定希少野生動物種「コガタノゲンゴロウ」

コガタノゲンゴロウ(*Cybister tripunctatus lateralis* (Fabricius)) (愛媛県:絶滅危惧1類、環境省:絶滅危惧2類)は、「愛媛県野生動物種の多様性に関する条例」に基づき、特定希少野生動物種に指定されています。愛媛県生物多様性センター(以下、センター)では、本種が野生下で安定的に生存できる環境を保全するため、詳細な生息状況と定量的な環境条件等の解析を行っていますので、その概要をお知らせします。本種は水生昆虫で、成虫の体長は約30mmあり、背面が緑色あるいは褐色を帯びた黒色をしており、強い光沢がある。

幼虫は細長い紡錘形で、体長は終齢で53.5mmに達します。近年、県内全域でコガタノゲンゴロウの成虫が確認されていますが、その分布は点在的で、2018年1月現在で、幼虫が確認され繁殖が確認され考えられるのは愛媛町の一部の水田地帯のみです。愛媛町で現地調査した結果、6月中旬から10月上旬まで、湛水状態の水田や水たまりのある休耕地で、成虫及び幼虫が繁殖していることが明らかとなり、冬季から5月まで、水田近隣の池や水路で成虫が越冬しているのを確認しました。捕獲した成虫にマーキングをして放し、再捕獲調査をしたところ、1.650m移動したことが分かりました。また、現地での観察や室内試験により、本種が産卵する植物(産卵基質)や幼虫のエサとなる水生動物類も明らかとなりました。



コガタノゲンゴロウ成虫

これらをもとに県では、本種の保護管理事業計画の策定を進めており、その計画に基づき、生育環境の維持、外来生物の侵入防止等具体的な保護管理活動を行うことにしています。もし、皆さんがお住まいの地域でコガタノゲンゴロウを見かけた場合は、デジタルカメラやスマホ等で撮影し当センターに御連絡いただけますと幸いです。なお、コガタノゲンゴロウを生きた個体を捕獲することは条例により禁止されているので御注意ください。

参考文献/齊正人・北山昭、1993、図鑑日本のゲンゴロウ、株式会社文一総合出版、231p

アルバム わくわく自然観察会

愛媛県生物多様性センターでは、県民参加型の自然観察会を開催しています。平成29年度は9回(共催含む)の観察会(表)を実施しました。今回はそのうちのいくつかを紹介します。

表 平成29年度に開催した自然観察会

日程	場所	内容
5/27	西条市 今治市	ハッチョウトンボ・カスミサンショウウオ観察会
7/1	今治市	大三島で生き物を探そう Vol.1
7/12	西予市	水田周辺の生物観察会
7/16	愛南町	須ノ川で生き物を探そう!
7/29	今治市	大三島で生き物を探そう Vol.2
8/5	西条市	中山川で川遊び
8/11	松山市	城山のライトトラップで虫探し
9/27	今治市	鱈田ヶ浜の生き物観察会
12/10	八幡浜市	八幡浜 海の魚観察会



図1 ハッチョウトンボ観察

■ハッチョウトンボ・カスミサンショウウオ観察会(5月27日開催)【図1、2】

庄内ハッチョウトンボ保存会の近藤茂幸氏、NPO法人生態系保全管理の藤原陽一郎氏、日本トンボ学会の武智礼央氏を講師としてお招きし、ハッチョウトンボとカスミサンショウウオの観察会を西条市と今治市で開催しました。ハッチョウトンボとカスミサンショウウオは県の条例指定種(特定希少野生動物種)として保護されており、絶滅が心配される種です。当日は日本一小さなハッチョウトンボの抜け殻を探したり、カスミサンショウウオの幼生を観察し、泉下の貴重な自然環境を学びました。



図2 カスミサンショウウオ観察

■須ノ川で生き物を探そう!(7月16日開催)【図3】

愛媛植物研究会・日本野鳥の会愛媛の橋越清一氏を講師としてお招きし、愛南町須ノ川で生き物観察会を開催しました。開催場所は高のちきによって海水と淡水が混じる汽水域で、その環境に適応した植物や淡水域と海水域を生育ステージによって往来するカニなどの甲殻類や豊富な生き物を観察することが出来ました。参加者は魚干しをエサにしたカニ釣りなどをして、自然と触れ合い、楽しみました。



図3 須ノ川で生き物を探そう!

■城山のライトトラップで虫探し(8月11日開催)【図4】

愛媛県会員の高原勇作氏と生物多様性センター職員が講師となり、松山城でライトトラップを用いた昆虫観察会を開催しました。ライトトラップは多くの昆虫が有する光に集まる性質を利用したトラップです。松山城は人工物に囲まれた孤立した自然環境ですが、カブトムシ等の大型甲虫の飛来もあり、参加者は驚いていました。松山城が都市部における生き物のオアシスとして機能していることが分かりました。



図4 ライトトラップで虫探し

※平成30年度自然観察会の予定と募集について

生物多様性センターでは平成30年度も引き続き自然観察会を開催する予定です。開催案内は県広報誌「愛顔えひめ」等への掲載や、生物多様性センターHPなどで行いますので、奮ってご参加ください。

TOPIC 外来生物

オオキンケイギク



図1 オオキンケイギク(特定外来生物)



図2 キバナコスモス(園芸品種)

オオキンケイギク(*Coreopsis lanceolata* L.)とは、北米原産で、高さ70cm以上になる大型のキク科の多年草です。花の時期は5～7月で、鮮やかな黄色い花を咲かせます。日本には明治時代中期に鑑賞用として導入され、その後、法面緑化として広範囲に使用されたものが逸出し野生化しました。本種は繁殖力が旺盛なので、土手や河原などに

で定着し、カワライコヤカワラナデシコ等の在来植物を駆逐する事例が国内で見られ、愛媛県内では各地の河川敷、堤防や道路法面、空き地などに拡大しています。本種は、このようなことから特定外来生物に指定され、栽培・生きたまま移動させること等が規制されています。また、似たような種類にキバナコスモスがあり、花や葉の形、花の咲く時期等がオオキンケイギクと異なりますので、表を参考に、お間違えのないよう注意してください。

表 オオキンケイギクとキバナコスモスの見分け方

	オオキンケイギク(図1)	キバナコスモス(図2)
花びらの色	黄色	黄色と褐色
花びらの形	先端が不規則に4～5つに分かれる(キバナコスモスが多い)	先端が3つに分かれる(キバナコスモスが多い)
葉の形	細長いへら状で、両面に短い毛がある	毛の少ない葉に似ていて、短く、切れ込みが多い
主な開花期	初夏	秋

※本表は「愛媛県」に限定して記載しています。
【注】オオキンケイギクには高繁殖力を持つ変種(図1)と繁殖力が弱い変種(図2)があります。

駆除の方法は、刈取りの場合は刈取りが根元から根が出て、再生する可能性があるため、抜き取りが最もよいとされます。また、種子が形成されている時期は、逆に種子を拡散させる恐れがあるので、結実前(梅雨頃)に作業を行うことが必要です。駆除する際には刈り取ったもの、根から引き抜いたものを天日で十分にさらして枯死させる等した後で、各自自治体のゴミの分別方法に従って処分してください。

参考文献/環境省自然環境部野生動物外来生物対策課、2018、特定外来生物特定外来植物、詳細PDF版、<http://www.env.go.jp/nature/infro/4docuement/manual/shokubutsu2.pdf>、2018年1月10日アクセス。
愛媛県環境政策部自然保護課生物多様性課、2010、愛媛県外来生物対策マニュアル、愛媛県、57pp

紹介 特定非営利活動法人内子未来づくりネットワーク

特定非営利活動法人内子未来づくりネットワークは、内子町の子どもへの環境学習支援を通して町のさらなる活性化を目的に活動している団体で、平成28年4月に設立されました。平成29年度には愛媛県から「平成29年度生物多様性保全・再生モデル地区推進事業」の委託を受けて、地域児童等を対象とした自然観察会やヒストリー整備、ワークショップ等を実施しています。また、専門家と協働で内子町で観察されるトンボ類の下敷きを制作したり、公民館に郷土の生物多様性コーナーを設置して、多くの人に活動を紹介します。トンボ下敷きは、郷土資料として価値の高いものとなっています。興味のある方は、是非、公民館を覗いてみてください。



編集・発行
愛媛県立衛生環境研究所 生物多様性センター
〒790-0003 愛媛県松山市三番町8丁目234
TEL 089-931-8757 FAX 089-934-6466
URL : <https://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity>
Mail : seibutsu-ont@pref.ehime.lg.jp

編集後記
今年の冬は例年になく厳しい寒さが続いているが、先日、カスミサンショウウオの卵の姿を見て少し嬉しくなりました。みんな春の準備を始めていますね。今後当センターにレターへのご意見や地域の情報をお寄せください。